

バストス週報

第二百六十九号

昭和三十三年
六月三日
発行

DIRETOR
KOITI MORI

REDATOR
SHION ODA

REDAÇÃO
RUA PRES.
VARGAS 188
C. P. 112
BASTOS
C. P.

一ヶ月
8000

大宅壯一氏に

もう一言

○コレラ、バストス人共同の抗議

昨年大宅壯一中野好夫の両大家が渡伯され、文筆に口舌に今迄の渡伯者からには到底きけなかつた辛辣な警告の如く、この三嘆したものである。

本年に入ってから、その旅行記、國々の紹介などが母國の一流誌に發表された。入るに当たって、その地ブラジルに於ては、母國人が海外旅行者の手記を、むしろ一方吾々の現地人がよんで大宅氏の卓抜な識見や、その表現の新鮮さに、今更の如く一驚を喫したのである。

大宅氏は五十數國を廻り、諸國の事情を述べて居られるが、他國のことは知らず吾々の住んで居るブラジルの吾々の移民の生態やコロニアの動き、又はアマゾンとか、聖州、芭州にわたって、よく仔細にあらだけ観察が出来たもの、又よく鋭い批評が出来たものと感心するが、コロニアの成功とソウ伴りになること、いささか大衆性だし通俗的で、生活力の最も旺盛なカプエーとピモンタ、即ち金のなる木を挙げて、その生産額の巨大なること、ハワイやアルゼンチンなどで到底見られぬ驚異的な成功として、寧ろ呆れて居られる。勿論、ソウいふ表現は異議はないけれども、バストスの紹介となると、粗雑で不親切で、とても鼻もちがらない。

大宅さんにとつては、一バストスの興衰は子リ一つにも等しいであらうが、三十年前海外移住組合フラタの予をつけられた移住地として、多少とも移住民史に足跡をのこしている土地を批評紹介するに、余りにも貪弱な表現である。何もバストスをほめて、八行にソウいふのではない、五行のものを七、八行にソウいふ、草分移民の在方を止しく紹介するのが、任務ではなかつたかと思ふのである。

週刊朝日、本年一月三十日号、開かれた窓々の一節「アサイ」という断へ行くとき、日本人の勢力が圧倒的で、アラジルの人の多日本語の看板を出して居る。、云々の次に「コレに及して日本人がもつとも早く入植したサンパウロ州のバストスは、今はずっかりさびれて、スイカ其の他の野

WA KA MU TO + 70ラS TOMAM = MOCIDADE

わかもと + 常用 = 青春

わかもとを常用なさる方に
老衰 は ございません

わかもと製造元 東京
わかもと製薬株式会社
輸込元 伯国總代理店
パワリスツ製薬会社
社長 中久保益太郎
C.P. 三六五六

ササキ 藥局
板垣 藥局
西川 藥局
イリネウ 藥局

バストス特別名

葉が、日本をのたまの姿と歩くというふい、かえつてわびしさを加えて居る。と人、バストスに親戚知人のある人など、どんな気がしたであらうか。

バストス最盛期の面影はない。トてもバストス人は、声を揃えて前述の大宅さん、バストス描寫を「違う」というかある。バストスに多少のインテレツトをもち、バストスよいと云。一度はおいで。水

ALFAIATARIA IMPERIAL

マルヤマの 洋服

きこいちのよ

丸山洋服店

けりや土地もよい、とキンキッ節に現
 れたこともあるバストスだ。大宅さん
 の仰言るとあり今はすっかりさびれてし
 まったが、それは最盛時との比較であつ
 て、現在のシツツアンテ(農地主)三百余は
 十年前に比して三分の一だが、千余家族
 を擁した頃のバストスの入植事情をも考
 慮して見ぬはなるまい。
 今から廿七八年前コロとして耕地に
 就働していた日本人移民が小金をためて
 どこか安い土地があつたら独立農となり
 たいと考えていた時、バストス移住地が
 開放され在伯一般邦人にも土地を分譲す
 る。十年々賦性、資金不足の者には開拓
 資金も三年々賦償還で貸してやる。一口
 ッテ(十アルケル)に一コント五百軒とい
 う棚ボタ式宣傳だから、ソレユケ！ワイ
 ッと人氣が出て忽ち満員になつてしまつ
 た。一万二千アルケルに八百家族がつ
 めこまれば、バストス周辺もこれに便乗し
 て二三百家族、蝟集したので当時全伯一
 の大集団地(邦人)となつた。
 ブラ移住地として一番早く満植完成
 したので、だからバストスで、同じブラ
 ンク系でもナエテなど四万アルケルも
 離れ下り、面積はバストスの数倍でも、
 健康などの関係で、人口も生産物
 量もバストスの下位にあつた。
 地形がよし、健康地であつたが、入植者
 が前述のようには小百姓で、開拓精神は旺
 盛で物凄いはかり、ブラ移住の指導者が産
 むをかりして叫んで、無施肥でやらせ
 ぶたり、の所謂、掠奪農をやりちにして
 数年間で土地を疲弊させてしまつた。そ
 の代り、中小成金が沢山出た。その成
 金が新興地(パナ州)へ、パワリス夕奥地
 えと、たん(道)を出していったのである。
 いわばバストスを足がかりとして、奥
 地が開発されたといつても、いいすぎで
 はない。
 旧植民地で疲弊したのには、ひとりバス
 トスだけではない。旧地帯はモシヤナ線
 を筆頭にノロエスタ、ソロパナ、どの線のと
 植民地も一樣に新興地帯に転耕者を吸
 収されて、ひどく淋しくなり、珈琲園を
 見るもムホンの荒れ方をした地方も少
 ない。
 バストスは棉の不況(一九四〇年)から養
 蚕を転換し(大戦中)戦後養蚕不況がく
 ると忽ち養鶏へ、かわつていった。勿論そ
 の他に組作もあるが、大宅さんのいうよ
 うに、スイカや野菜作りでホソボソと暮
 してゐるわけではない。
 一ト口にはスイカ作りといつてもバスト
 スのスイカは聖市々場を第一級品と折紙を
 つけられる逸品で、毎日カニニオンを出
 荷するが、日本とちがつて、年一回では
 なく、次々と品種も時付財もかえて年数

講演と映画の夕

講師 西本願寺開教總長

渡辺 静波 師

日時 来る六月七日午後七時より
場所 バストス産業會館

天皇、皇后 西陛下

伊勢路御旅行(行幸啓)
の状況謹寫

皇太子殿下 欧州御訪問

一昨年英皇國女皇戴冠式御参列
及御旅行の状況謹寫

本映画は三重県海外協会所有提供
めつたに見られる映画 (入場無料)

主催 バストス佛教會

回収獲し、バストス西氏といえは相当名の
 通つた上等品であることを知つてもらうわ
 ないことなる。
 いかにはバストス人の農魂が逞ましいか
 とほめたとして、ちつともおかしうはない
 のである。カ左一倒迎でもよかろうが
 農人である以上、多角式でゆく可きであ
 り、カ左一に向かない土地なら、向いた
 ものを生産してゆくのが農道というもので
 であらう。
 野菜作りといつてもテンからキリまで
 迫ある。今や國道の完備と運搬車の充実
 によつて、バストスの野菜は聖市へも行
 くがパナ州までも送られてゆく。組合
 組織の発達によつて、臨機応変と云へても
 処分されてゆくのであつて、町の小市場
 を目標にやつて居る野菜業者の中には、メロン
 知つてもらひ度い。業者の中には、ナリメ
 の栽培に成功してゐる者もあり、ナリメ
 ンカボチやで富を積んでゐる者もあらわ
 れ、その規模の壮大に於いて相当の資本
 を要し、洗してホソく、たるせり方は農
 業として成立たない所並、さしてゐるこ
 とも承知してゐたさういふ。
 大宅さんはスイカ畑を見られて、附近
 に林立する鶏舎を見おとす居られる。
 バストス名所ともいへるバンテラン
 テの種鶏舎を訪問され、た著だがバストス
 の産業中興の祖ともいふべき養鶏を見お

とされては問題になりぬ。養鶏は必ずしもバスターズの専断ではないが、聖市近郊と覇を競うほどの産業で、四つの組合と三つの商社が鶏卵を扱っている。成鶏約三〇万羽、年産九万箱（老鶏三打八）を産する。鶏卵を聖市へ供給している。

バスターズの養蚕も古い歴史があり、景気不況によつて一退一退はあったけれど、伯國政府の斯道奨励によつて現在では、伯國絹糸の生産地は大部分聖州となつてゐる。その全産額の三分はバスターズで生産されているのが実情。こういふ大成功の問題に大宅さんは目をとじ、バスターズのさび川方を強調する為め、トウフ屋の鈴の音などさかせるとは驚いたものだ。昨年度アラタク製糸バスターズ工場の生両取扱高は四十三万キロであった。

更にバスターズの新事業業に、放牛のありとも忘れられてもいたくない。大は牧牛専門から今は一農家の十頭程度迄を調査すると邦人だけで八千頭を突破し、伯人業者を加えると一萬頭以上になる。コチア産組倉庫山中氏による、既に肉牛の一大供出地として州内屈指の放牧地として教えられてゐる。

これらの実情は、バスターズ人が教こそ昔の比ではないが、いかに強い自覚をもち、オニの故郷に愛着をもつてゐるかと、いふよい表示で、教の用があるかの価値も十年前とは教の用があるかの正確なことはいえないが、十教百家族時代の財産と生産とは、今日バスターズを守つてゐる少数の人々によつて、何倍かに増加されてゐるのである。

大宅さんの鋭利な観察に楯をつくわけではないが、バスターズは、日本が未植する人も多し、ことだし、その人達が「なんでもバスターズ」といふ見込みのない処による、光い主にも迷はされて困る。事として、先入主に迷はされて困る。事なをよんたり、大宅中野両先生対談バスターズを評価されては、バスターズ人とつて迷惑の上もない話だ。邦人の某団地へ行けば、トーフ屋の一軒は必ずある。鈴をふつて、賣り歩くというの、大宅さんの誤聞で、たぶん牛追ひの鈴のささちがいであらう。トーフとこるか、コニニヤクも餅もソバも、およそ日本人の食うものなり何れもあるが、バスターズに欠けたものは、大宅さんに「スマートラでも購入して再移住の世話をしてはどうか」といふと、提言するべし、ホーシの紳士の居ないこと、それをかかむの賣り上げを、人を雇つて計算するよう、富豪の居ないこと、の二つであらう。バスターズはもう三年たつと、同植三十周年である。草分の

残りもまだ山あつて頑固してゐるが、そんなら急にはさびれない。(終) 赤者

念の爲め生産物を価格に見積つて見ると、生兩一萬六千コント、鶏卵四万コント、西瓜外野菜四千コント、棉花二万コント、羽、等があるもの、此の外落花生果実、牧牛があるが、つまびらかでない。(五月二十七日、赤音生)

少年野球（泣バ） バスターズ軍大勝

五月二十九日正午試合開始、ルセリア先攻、バスターズ軍のホジソン左の通り、中島二壘、根三壘、池内遊撃、湯井一壘、中川中、前山投、松川友、小野右、浅田捕（打撃順）

一回	二回	三回	四回	五回	六回	七回	計
ルセリア	0	0	0	0	0	0	0
バスターズ	3	2	2	2	1	4	15

15A×0

ルセリアはバッテリも思はれず、守備も悪く、打撃が振はず、到底バスターズの敵ではなかった。中々一朝にして見られるチームにはなれないものだ。つづき、感じさせられた。週日のガラペスのような敵には、からだがとぶつからなければならぬが、今日の試合は殆んど一方的に送手も気が楽であつたろう。

死亡 通知 会葬 御礼

夫 篤儀子、病氣療養中の処、突然病華まり、去る五月廿六日午後五時他界いたしました。

葬送につきましては、御忙しい処、御会葬下さり、且又過分なる御香華を頂き、有難く厚く御礼申上いたします。

又生前御懇篤を賜つた方に、御通知申上けらるゝ共に、一々会葬御礼に参上せぬ、なりませぬが、取込んで居りますので、畧儀作らぬ上を以て厚く御礼申上ます。

一九五五年五月廿七日

- 喪主 妻 橋元
- 長男 義信
 - 次男 忠信
 - 三男 光則
 - 四男 靖男
 - 次女 智恵子
 - 五男 澄子
 - 長女 安藤
 - 婿 安藤 澄子
 - 親戚 安藤 新一
 - 友人 新出 一郎
 - 堂前 幸太郎

著にも棒にもかからぬ
不良青年だった
三船良造のざんげばなし

三船良造君曰く

私は生長の家の先生ではない。二十八歳の時の一青年に過ぎない。しかもあつちの悪事を働き、法網をくぐつてきた男である。その不良青年が、バストスの皆さんに、何を話そうというのか？

世話役の辯

来る 六月二十日 夜七時半より

バストス産業會館にて

三船良造君の

ふんば話をきく会を催します。主催者として一言その企図を述べさせて頂きます。かつてバストスの智識人たる織田系音先生が、某新聞の「現代青年層に何を望むか」と云ふアンケートに對し、「私はコロニア現代青年層の思想革命を成し、人物の出で人事を望む」と言はれましたが、今や、そういう人物が現れました。但し、それは一個人ではなく、生長の家ブラジル總支部直轄の

青年練成道場

！、なのであります。

そこに全生命を投出して南米の思想革命即ち光明化の爲めに献身的努力を払って居られる青年指導者の一団こそ、正しくその代表人物なのであります。(下段へ)

かつては酒女、はくち、詐欺等あらゆる悪を重ね、果ては自殺を企てるに至つた彼、三船良造君は、最後に道場の門をくぐりました。そこで彼の魂はどんな変化を見せたでしょうか。僅か三日間にし、ぐるりぐるりと大きく二回転を見せ、「吾れ、全南米光明化運動の選士たり」と誓ひしめた事実は、これ明らかで現成コロニア思潮の一大革命でなく、何でありました。や、や、や、と生きたる目標をも失いがちな現代の青年にとつて彼三船君の話は必すや、強力な覚醒剤となるにちがいありません。

スホノ在住

天下の革命児 三船良造君

の興味津々たる話

来る 六月二十日夜七時半

バストス 産業會館 に於て

男女青年は勿論、一般の方々もなにも是非おいで下さい。(入場無料)

主催 生長の家練成道場生
後援 生長の家バストス誌友相慶會
後援 バストス聯合青年團

上ヶ島 製粉工場

旧産組精米所跡

養雞用 ミーリヨキレイア

アバロミモイホ級

米の粉・マンジョカ粉

一切の製粉・精製の御用承ります

養雞家の皆様が、ミーリヨ購入、又は依託の御相談にも充分サービス致します

御好み次第、御用命通り
身を粉にして働く

上ヶ島製粉工場

Escola Primaria Domestica
Santa Teresinha
Bastos

バストス家政学校

同窓會 アビード

(Confissão e Comunhão)

六月十二日午前七時より
年の務めを果すため洗禮を受けたい方 Patipades は
告白 (Confissão) が始まります
ミサ聖祭は七時半。ミサ聖祭
中同窓生に對するマルケン
ニヨ神父様の御講話があり
ます

ミサ終了后例年のならわしに
従ひ、持寄りの茶話会をい
たします
十一時解散の予定

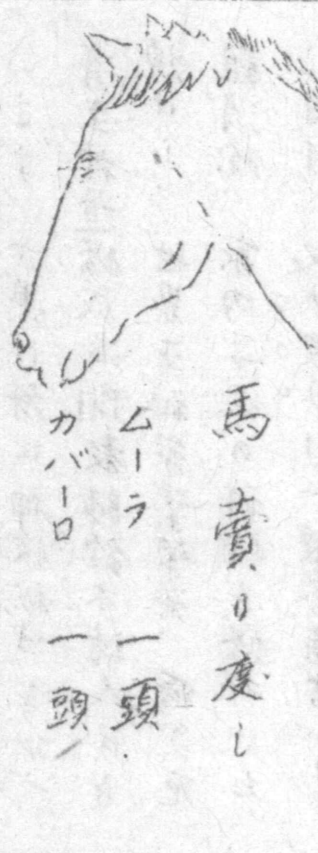
コロニアの徴

(道路四月号より転載)

邦人コロニアの丁史も半世紀に近く、そろそろカビの生える時期である。しかし同じくバイキンにも良性と悪性のものがある。医学界に新時代を画したペニシリンは一種のバイキンの培養によつて造られてゐるし、又貴重なる消化剤のジヤスターでもバイキンが異なるのみで同様の製薬原理によるものである。このように良質バイキンは人類社会に多大の福利をもたらすに反し、不良バイキンは自身を腐らすばかりでなく、他にまで大きな害毒を及ぼす。しかも不良バイキンは盛衰を逞し、するたのにその撲滅が困難である。ところが邦人コロニアを一つの複合体にたとへると一部不良細胞が勢力を得て跋扈しつつある事實を見るのである。しかしその強さは、良質を知るぬもの強さであり、恰も雑草に似て伐られて太陽下に曝される時は死滅する外はない。他方弱さうに見えざる良質細胞はモラルの面には大きな力をもつてゐるが、單に鳴りを静めてゐるに過ぎない。しかし乍ら不良細胞が率では僅かであつても、一時的にせよ想像にも絶する威力で繁殖し、他に伝播するところを怖しさがあふ。

この数ヶ月来世評に上つてゐる本邦身隊の如きコロニアの不良バグキであつて、その常軌を逸した行為は取すべきではない。が、さりとてそれが恰もコロニアの致命的事件のように騒が立てるのも見苦しい。凡そ何れの社会にも犯罪はつさもので、あるが、本邦身隊の行動は一種の精神異常から来る秩序攪乱であり、その処置はいかん乍ら警察当局に委ねる他はないが、コロニアとしては何故かこのような異常分子を生むに至つたかを検討する要がある。此処で彼ら本邦身隊を不良バグキと見るなればコロニアはその培養基に相当するわけである。換言すればコロニアの心の階層から不良バグキが發生したことに

もなるのである。心のすままはコロニアの持つ特異性でもあるが、その主なるものとして、ラヂルに対する理解の欠如を挙げられる。本邦身隊は極端に悪い意味の特異性で、ラヂルについて理解するがために自己の生活が地に付いていない。従つて生活目標も理想もなく加うるに経済的に志すれぬ処から、迷夢の世界を描いて現実逃避の行動に出る結果となるのである。こうした異常分子は全コロニアに極少ではあるが、程度は二つあり、以上挙げたような特異性がコロニアにあることは否めない。それを一言にこの点イタリヤドイト移民は祖国の優れものを保持し乍らもラヂルを学ぶ態度が彼らの日常生活に表れてゐる。教養とは祖国で高等教育を受けた人のみらもの特権と考へるのは間違ひであり、このような環境にあつても人各々の心掛を養ふやうな腐り且つ身につけ得るが教養を簡單にけり割功れないが、自身の生活を築くためにも慇懃と迫らぬ氣持でラヂルを理解することが必要である。一説にはコロニアの一世は既に老いてゐるから諦めものであるが、その二世は当国の社会に渾然融和しつゝあると。それは事實であるが、しかし概して都会に多く見られる現象であつて、地方農村では當國生れの子弟に於いて一世教養のままと受つてゐるものが多い。こゝもなほカボク化してその指導のたのみに一世の氣構えに負うた理由がある。老いの身に鞭打たねばならぬ



馬賣り度し
ムーラ 一頭
カバロ 一頭

どんな仕事でもよくする良馬です
御希望の方は左記へおいで下さい
カスカッタ區 一組

浅野武男

Alfataria São Paulo



カウツレィロ
紳士向
お車よりむき
若い方むき
洋服地をいろいろ取揃えて
添ります故
一度おでかけ下さい

すばらしい柄が沢山あります
ドミテカシヤス街 ポント向側

中城洋服店

御案内

来る六月廿九日は当区、蚕祖神社に於て、御遷座祭、鎮火祭、及び当区入植廿五周年を祝して左記大祭を行ないます。式典は殊に神授秘法を以て、齊主神道修成派開教師鈴木清人氏を煩はし、世界平和家業繁栄、病災厄難消除、家内安全の祈願を修行いたします。又大渡りは一一般参詣者が素足で火の上を歩く妙法、珍らしい秘法でも、何卒御誘い合せ御参詣下さる様、御案内申上ります。

○場所、バストス、エスペランサ新生区
蚕祖神社。町より五キロの地点

行事

六月廿九日正午より
午後一時より 似殿祭
午後二時より 御遷座祭式
午後三時より 本殿御遷座
午後六時より 餅まき、祝賀宴会
午後八時より 鎮火祭開始
神舞祈禱
火渡り

祭主 エスペランサ新生区

蚕祖神社氏子總代

バストス移住地各位

バストス短歌会報

バストス短歌会では五月十五日午後一時より池田ホテル第五十四回例会を催した出席者七名、文席投稿六名、得点一位池田夜詩緒、佐伯唯絵、二位田中頼月、渡辺チエ、木塚重洋、重道チハ子、三位山本一男、以下畧

- とき母を語る夜あれど父のこと 吟 絵
- 籠えて語りぬ父知らぬ夜 夜詩緒
- ロソクの炎に断りぬるめて 夜詩緒
- ベロニカ行行列はアベニムを過ぐ
- 霧はれて木残日薄く射す蒼に チ エ
- 煙とせ合いて眼つぶるカサリヤ
- 母の日明日は賜物するま子に 千代子
- 期待するく菊を泣けをり
- 焼肉にホーロ並べへ伯人ッ 修 水
- 結婚披露宴 簡単にして
- かぐさの屋根はくされていつとなく 霜 月
- 納屋一面に糸此ゆらるる
- 明日日曜と思ふ気楽一人飲む 一 男
- 酒に夜更くることをたのしむ

會葉御礼

三男昭の妻、実子、僕病氣加療中。処、薬石効無く遂に去る五月廿九日午前六時永眠仕り、翌三十日バスト墓地に埋葬致しました。皆様御多忙中にも不拘遠路御会葬下さりました上過分の御香華を賜わり厚く御礼申上ります。

一々御礼に参上致すが本意なれど畧儀下り紙上を以て御礼申上ります非礼甚重にも御了承下さる様願います。又カリアア工区の方々に日多大の御世話を蒙りました重く厚く御礼申上ります。

一九五五年六月一日

- 父 緒 方 嘉 昭 作
母 緒 方 嘉 昭 作
夫 緒 方 嘉 昭 作
兄 緒 方 嘉 昭 作
弟 緒 方 嘉 昭 作
妹 緒 方 嘉 昭 作
- 親戚
末 沢 善 一 代
戸 谷 虎 雄
中 村 幸 一 男
後 藤 白 一
招 岡 久 米 藏
麻 林 次 郎
三 好 哲 雄
浮 田 現 三 郎
秋 沢 幸 三 郎
- 友人
各 位

(上記よりつづく)
羊 鈴
枝 美
孤 舟
菊 子
速 見

草を喰む馬の気配を外に圓きつ
酔のゆく朝の寝間のしづけさ
吹きなびく椰子の青葉に秋の音が
丸いかゞぐ牧の道の辺
開け放つ窓を鳴らせる冬風は
皆戸のユカリはのかたをふ
風落ちて月済えわたる庭土に
立木の影のくつきりと浮く
二日つゞきし瓜尔熱下りて熱蚕
拾へば結婚シムぬけか、未ぬ

老人クイズ解答 (五月廿日出版)

- 1 ナタール 何樽 カナナ 神魚春 ハル
- 2 ミヨニナ ジュージ 妙日 柔字 殺 蛾 劑 ツ
- 3 スイバク カンキン 水馬喰 現金 (水爆厳禁)
- 4 キミアメ チヤン 黄甲 飴 支那 木 林 ホクニツホン
- 5 シノメ ストライキ 東 雲 爭議

正解者 味増進さん、紅石さん、老品オトリ
立誠さん、豊吉さん、若上様です

奥田ドトール

結婚行進曲

同志生は一人のこりすかりがし、早いのは、様もできよう
というのに奥田耕氏は、中々結婚すると宣言、友人
一同をハラ／＼させたが、此の度太郎田、越智のマンモ
ス先輩が所煎りて前田清子さんとイタレージマバストス
で五月廿九日、式をあげた。本人同志より友人同志まで
がすかりをたのめたい。おめでとう。来賓二百余名、トラ
にのる才が大騒ぎ、おめでとう。おめでとう。おめでとう。
おめでとう。

急 告

来る六月八日(水)午後一時

バストス産業會館にて

高崎節子女史

の講演会を開きます

演題

戦後十年間の日本婦人の歩み

高崎女史について

東京都青少年問題協議会 幹事
労働者婦人少年局東京婦人少年室長
労働事務官 (明治四十三年一月七日生)
(女のお役人です)
皆さんの御來聴を歓迎いたします

バストス 聯合日本人會

バストス舞踊団出發

バストス師範学校の経営者側では資金獲得の
為の女子中学生の組織する舞踊団を引率
として六月三日カピラスに向い、四日校テアト
ロムニバルで日本舞踊を公開することに成った
関係者数十名の汽車賃はカピラス、ベルナンカゲ
及セクト商會が負担するも、カンピナス日本人會
では滞在中の食費と接待費をしてくれる由申出であ
り主催者とカンピナスとせている。
しつかりモテてくるよういやる。

トラットール

至急 格安にゆづる

カレトク 一五〇〇キロ 積

カレトク

噴霧器 アレキ付

左記へ御申込み下さい

カレトク コロニア

重道商店

求 人

家事の手伝いをする十五、十六以上の
女の 子

半日通学の時間を与えます

仕込み、相当の給料を払います

聖市の良家庭です、心配いりません

左記へ御とがね下さい

委細面談 前田呉服店

バストス

少年野球選手諸君に急告

来る七月二十三日、四日 全伯少年野球大会
出場、資格

一九四一年一月以降生れの者、セルチドンナメント
のバストコピアを提示が必要

バストコピアは

古田寫真館です、調製します

皆さんお忘れなく

古田寫真館へ

Departamento Japonês. Rua Dr. Mauck Nº 542. Fone

オリーブ樹ノ黄金時代ガ来マシタ。

珈琲ノ時代ハ昨日ノ夢!!

世界最大のオリーブ農園ガ

南パラナノ地に誕生!!

氣候・風土が日本人に適し、セウカジアラ病虫害に対し絶対に心配のない市場価値が不変で、そして吾々の生活になくはならぬもの。其の上永く不変があり、珈琲樹に代る植物で樹令数百年を待ち、収入不変のものは、オリーブ樹です。!!!!

組織 II 国際資本でオリーブ界の世界的権威者に依り創立

アクリンコドブラジル株式会社

後援 II 連邦政府、農務省、農務局長

位置 II 南米大陸にクロコニアアツルした国際観光地、油国唯一の国立公園に近く、国際道路に添ふ交通至便の地です

分譲方針 II フラノ・アクリンコ

(イ) 面積と樹数、日取少単位五ヘクタール

オリーブ樹五十本、ルネ、カツ、六百本、希望に依り面積と樹数に制限ありません

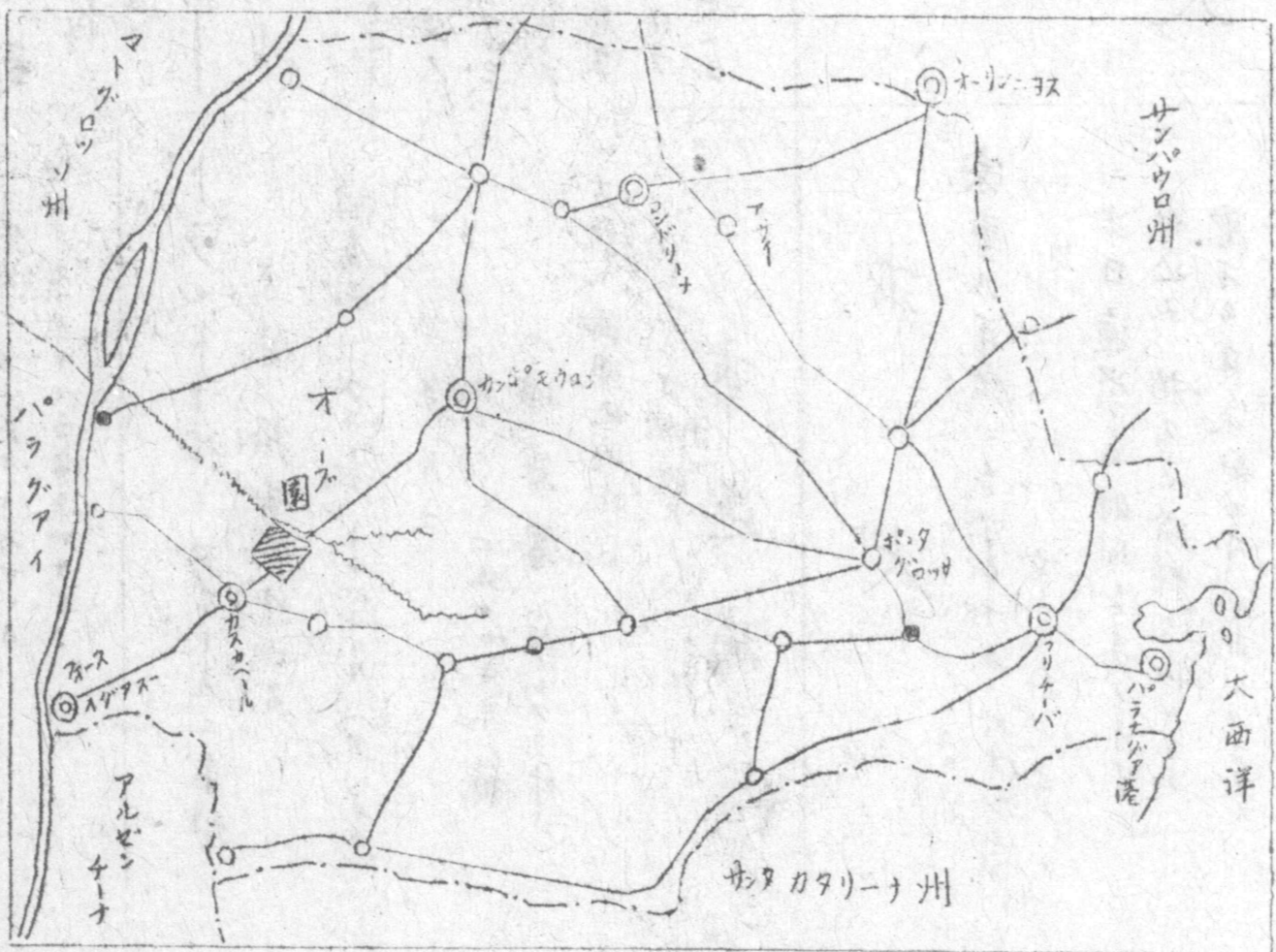
(ロ) 土地代、山伐、整地、家屋の設備、オリーブ苗木、カネ、種子、植付等が会社の負担でなされます。

(ハ) 成樹まで四ヶ年間は、オリーブ、カネの補植や剪定除草手入れが実費で、会社の責任でなされます。

(ニ) 五ヶ年後、向う十年は各自口ツテから生産されたオリーブ、カネ、総收穫量の三割は会社に提供せねばなりません

(ホ) フラノ・コロニハツソン。現地に入植希望の御方は山伐、整地、住宅、移駐費は入植者の負担です。会社はオリーブ苗木、カネ、種子、四ヶ年間の育成に關し技術的指導を盡心いたします。樹令(二)の各項目は適用されますが、何れもは総て入植者の収入で自由です。フラノ・アクリンコで購入された方は各自口ツテからの收穫を得る様になつた五ヶ年目から、收穫、除草、手入れ等の諸実費と差引いて、利益金を各自に送金します。

村点り土地はあなただけのもの、育成と苦勞は會社利益はあなたのためとあるに、株主のメンバー、資本、機構とその組織、極大の計画、信用の資点を調査して、豊稔と世界に誇れる那ノ進歩を期待します



お問合せは左記へ

聖市リベルターデ街二十一番二百十一号

アクリンコ株式会社日本人部

サンパウロ、理人 中塚 定 弘

詳しくは説明申上ります